

平成29年度 上伊那圏域特別支援教育連携協議会事業報告・反省

月	日	曜	会合名等	実施内容及び反省等
4	13	木	事務局会	経過説明
	24	月	経過説明	きらりあさんへ
5	2	火	事務局会	役員会の持ち方について
	11	木	役員会	今年度の方向について
	17	水	郡特連理事会	県大会について
	22	月	第1回上伊那圏域地域自立支援協議会全体会	参加
	26	金	かみとくれん総会	事業報告・事業計画について 決算・予算について 関係者より圏域の課題及び教育に寄せる思いを話していただく
6	16	金	役員会	サポート会議・県大会について
7	14	金	役員会	サポート会議・県大会について
	29	土	上伊那圏域 連携サポート会議 226名参加 ※市教委共催のため 会場費無料	H29テーマ 支援会議を学ぼう！ AM:支援会議A「チームTKB」・・・支援会議の意味を問う 支援会議B「チームかみとくれん」上伊那の連携のベクトルを語る 支援会議C「チーム伊那養」支援会議の事例モデルを見ながら PM:分科会 支援会議①:基本的な進め方と他機関との連絡調整等 支援会議②:家庭支援にかかわること 支援会議③:不登校にかかわること 支援会議④:愛着・療育・教育での支援にかかわること 支援会議⑤:就学や進学・就労にかかわること
	31	月	県特連上伊那大会	午後の分科会では、上伊那の財産ともいえる副学籍制を活かした交流及び共同学習、分教室での実践を発表し上伊那に来ていただき学んでいただくことに意味づけをした。
9	11	月	地区代表者会	県教委主催
10	21	土	ヘネシー澄子研修会	協力
11	24	金	発達障がい診療 症例検討会	上伊那圏域発達障がい診療地域連絡会①・・・共催 内容:「途切れのない支援を目指して」～ライフステージ別の5症例から 症例1:環境への慣れにくさが顕著で、心身症状にも表れるため環境配備に苦慮する保育園長児 症例2:生活が整わないため、安定的に登校することができない小学5年生 症例3:感情のコントロールが苦手で授業を休みがちなADHDの中学2年生 症例4:生活習慣の自立困難と自己肯定感の低さが際立つADHDの高校2年生 症例5:「大学終わったら死ぬしかない」と語る大学3年生 スーパーバイザー:こころの医療センター駒ヶ根 原田先生
	29	水	長野県LD等発達障害児者親の会 四つ葉の会南信支部企画 よつ葉塾	協力
12	13	水	発達障がい診療講演会	上伊那圏域発達障がい診療地域連絡会②・・・共催 講演会「ライフステージに応じた発達支援」 講師:信州大学医学部附属病院 子どものこころ診療部 本田先生
2	2	金	理事・役員会	
	8	木	地区代表者会	県教委主催
3			事務局会	
※その他、症例検討会準備会及び自立支援協議会療育部会に参加				
<p>・いなっせを利用(ホール・ギャラリー等)する場合、市教委の協力を得て減免していただいた。継続していからるよう、形にしていきたい。かみとくれん組織に教育行政の方が入っていただくと、より実効性のある組織になると考える。</p> <p>・県の地区代表者会には、各市町村の代表特コが参加し、役員会として位置づけられるようにしていきたい。</p> <p>・療育部会には、確実に役員が参加していけるようにしていきたい。</p> <p>・サポート会議の次年度の方向として、もう一度「支援会議2」でより具体を設定、縦の連携をテーマに「ライフステージ」、福祉や行政が参加できる内容設定、著名分野の講演(日詰正文、上野一彦、高山恵子、ヘネシー澄子等)。分科会の新構成(研修会・学習会的内容等)</p> <p>・3年目を迎えつながりが強固になりつつある。教育主導から、各分野ごとで分担して各行事を企画運営し圏域のニーズがより反映されるようにしていきたい。</p> <p>・圏域としてのまとまりができつつある。各ブロックごと・・・サテライト化へもう一歩踏み出していけたらと思う。</p>				

総括・上伊那郡特別支援教育研究連盟(郡特連)

多様な学びの場連絡会	中高特コ	6	29	木	中高特コ会連絡会	自己紹介・今後の運営について・アンケート結果をもとにした方向性の検討 通級の役割について 個別の情報交換会
		11	10	金	伊那東部中学校 公開研究授業	①特支体育授業公開 ②通常級理科UD授業公開 ③LD等通級指導教室公開
		3	20	火	中高特コ会連絡会	「特別な支援を必要とする生徒連絡票」を通しての個別の生徒移行支援(引き継ぎ)
	<p>・「つくば開成高等学校の紹介」を来年度は実現させたい。</p> <p>1, 役員選出に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校役員が全員各校の特コではなかったため動きにくかった。特コが役員になるように新年度の役職を確認してから決定してほしい。 ・高校は、校長会長の学校を1年交代で持ち回りしているため、仕事内容の引き継ぎが十分でない。来年度からは、副責任者として前年度役員を配置させたい。 <p>2, 中高特支の交流に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は伊那東部中で公開した。既に姉妹校として交流している学校があるようなので、その様子を情報交換しつつ、無理のない範囲で各地区ごとに中学校特支の授業を参観してもらえるように広げていきたい。 <p>3, 3月末の中高特支連絡会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校サイドでは校長会にも諮り、生徒指導連絡会と同時開催の方向で提案してきたが、高校サイド(主催者側)の判断で午前・午後に分けての従来実施となった。午前に話したことを午後にも重複して伝える必要がないよう、高校内で連絡を徹底してほしい。 					
	合同	10	5	木	中高特コ会 通級連絡会 合同研修会	「特性をもつ学生の大学生活の困難さと直面する課題」 講師:信州大学 総合健康安全センター 伊那キャンパス分室 保健室:春日保健師 支援室:下平心理士 年度末における中高移行支援のための連絡票について
		<ul style="list-style-type: none"> ・本年度スタートにあたり、今後の通級の役割は大きくなる。(担当者数増加も今後考えられる)そのための組織ベースを整えたい。 ・日本語教室担当者の参加及び研修会の設定 ・通級の役割についての説明資料の作成 ・高等学校通級への強力 <p>・LD通級、ことば通級、院内学級、日本語教室、それぞれ指導内容も異なり、それぞれに会をもっているの、あまり必要性を感じない。会合の精選の意味で代表者のみの会にするか、年1回程度にするかにしてほしい。</p>				
	通級	6	9	金	通級指導教室連絡会	自己紹介 通級指導に期待されている役割について 今後の会のもちかたについて
		7	6	木		伊那市:通級指導教室職員によることばの教室参観
		9	1	金		教室運営計画を見ながらの意見交換
		10	27	金		通級指導教室授業公開:伊那北小学校
11		10	金	中学校特別支援教育公開 東部中学校の校内研究日に関係者にも公開(高等学校にも案内を出す)		
2		2	金	活動内容のまとめと来年度の方向について		
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度初めての試みだった。ことばの教室の授業をLD等通級指導教室の先生が参観に行ったり、その反対を行ったりして新たな発見があった。 ・南部・中部・北部ごと、授業を見合ったり、意見交換もしたりできた。ことばの教室にLD等の子が来ていたり、LD等通級指導教室にことばの心配な子が来ていたりするため参考になった。 ・多様な学びの場連絡会に高校の先生(箕輪進修)も参加して下さり参考になった。 ・多様な学びの場連絡会に、日本語指導教室を担当されている先生も参加するのが良いのではという意見もあった。 ・医療・福祉・親の会・保育・教育・行政が連携できることは、とっても良いことだと思う。ぜひ、他市町村へ広げていけると良いと思う。 						
院内	11	14	火	院内学級連絡会	本年度はこころの医療センター駒ヶ根にて情報交換会。 ・こころの医療センター駒ヶ根院内学級から ・伊那中央病院院内学級から ・意見交換	
	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもについての情報をいかに共有していくか、まだ課題が残る。、月1回の情報交換会では対応が難しく、ショートカンファレンスやケースカンファレンスなどの情報を共有する方策を考えて行きたい。 ・来年度は伊那中、小が当番。信大の院内学級の見学と情報交換会を行ってはいかがか。 					

上伊那教育会特別支援教育委員会（特支委員会）	4	18	火	第1回委員会	顔合わせ・年間計画立案・役割分担
	5	12	金	第2回委員会	会報内容検討
	6	16	金	教育課程研究協議会 事前授業参観	授業参観・授業研究会
		30	金		
	7	7	金	第3回委員会 会報発行(25号)	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭言 自分たちの問題を自分たち自身で解決する仕組みづくり:会長 ・教育課程研究協議会について ・上伊那圏域連携サポート会議について ・長野県特別支援教育研究連盟総会及び研究協議会上伊那大会について ・上伊那生協病院での学習会のお知らせ ・上伊那教育会ホームページ活用について
	9	8	金	第4回委員会	教育課程研究協議会・なかよし作品展について
	10	11	水	教育課程研究協議会	会場校:辰野西小学校 UD部会研究テーマ 特別な支援が必要な児童が学びやすい授業づくり ～ユニバーサルデザインを生かした学習支援・環境・評価について～ 1, 2年生4学級が公開 国語・算数・体育・特別活動 生単・自立部会研究テーマ 個別の指導計画をもとにした学ぶ喜びが持てる授業づくり ～それぞれの児童のねらい・学習内容・支援について～ 知障学級・自情障学級合同の生活単元学習・自立活動
					<ul style="list-style-type: none"> ・県教委からの情報提供 ・講話「卒業後の生活を見据えた時に、学校現場で大切にしてほしいことについて」 講師:齊藤診療所相談支援専門員 遠藤先生 ・情報交換 ①自立活動 ②生活単元学習 ③合理的配慮 ④原級との連携 ⑤自情障学級の運営
	11	2	木	なかよし作品展前日準備	
		3～7		なかよし作品展	いなっせ2階ギャラリーにて
		24	金	第5回委員会	教育課程研究協議会・なかよし作品展の反省 会報内容検討
2	5	月	第6回委員会	会報発行(26号)	
<ul style="list-style-type: none"> ・かみとくれんの動きがより見えるようにするため、役員会の議事録を教育会ホームページに載せるようにした。議事録の存在を広め、圏域の動きや課題をより多くの方々に知っていただきたい。 ・なかよし作品展は、市教委との共催という形で減免申請をして会場費を無料にする。 ・減免申請の際は、市教委といなっせに作品展のポスターを必要書類と一緒に渡す。 ・会報「〇〇」はかみとくれんの組織を有効に活用し、教育現場以外からの情報提供も行っていく。 ・上伊那圏域の特別支援教育の方向性を示していただいてありがたい。 ・来年度の特支委員会も、現在と同じ委員数をお願いしたい。 					
上伊那教育会特別支援教育研究会（特支研）	4	20	木	事務局会	
	6	18	土	総会・研修会①	実践発表「乳幼児期から学童期までの切れ目ない支援～駒ヶ根市の取り組み～」 小口 尚子先生(駒ヶ根市保健師) 黒澤 利恵先生(駒ヶ根市つくし園園長)
					講演会「幼児期から学童期における小集団での取り組み」～自己肯定感を高めるために～ フラワーハイツ作業療法士 池口 美紀子先生
	10	28	土	研修会② 講演会	講師:あいち障がい者センター理事長・日本福祉大学名誉教授 近藤直子先生
	1	11	木	事務局会	
27		土	研修会③ 講演会	講演会「医療と学校・保育園幼稚園との連携」 講師:伊那中央病院小児科医 永春幸子先生	
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度より「かみとくれん協力金」として、30,000円を負担する形にしたが、来年度以降も同じ形・金額で行っていきたい。 ・特支研以外のかみとくれんに関わる研修があれば、メール配信を通して保育園等にも呼びかけを行っていきたい。 来年度の方向 ・例年通り、土曜日の午前中に研修会を実施していく。 ・通知発送について、学校にはサイボウズを通して、保育園には市町村担当課を通してメールによる配信を行っていく。 ・特支研独自にホームページを立ち上げた。研修、入会申し込みは、ホームページを通して行えるようにしていく。 ・会費を来年度より100円減額する。 ・研修会は、6/16・9/29・1/26に実施する。 					

障言上長 伊野那県 支支教 部部組 (障教部)	5	26	金	障教部定期大会	運動方針の確認
	8	1	火	施設見学 参加者16名	ほたるっこ及びさくらの家見学(就業継続支援B型施設) アンサンブル伊那で昼食
	<p>・かみとくれん、郡特連との共催で、研修として参加できる形を今後もお願いしたいです。</p> <p>・かみとくれんの総会后に、障教部定期大会を開くことができる現在の形を今後もお願いしたいです。可能であれば、かみとくれんの総会が伊那養の運動会の準備と重ならないようにしていただくと参加者が増えるのではないかと思います。</p>				
各ブ ロッ ク 会					県からの情報提供
	6	7	水	北部地区特支Co連絡会	当番校の計画による情報交換会(LD等通級指導教室について) 地区別懇談会
	<p>・同学年会での研修(LD等通級指導教室)は、実際に教材を見せていただいたり、実践のお話をお聞きすることができ、とても有意義な会になった。</p> <p>・北部地区の全体に関しては、来年度もそのあり方を検討していく。ただし、それぞれの市町村教委の協力を得ながら各中学校区の協議を行っていく。</p>				
	5	16	火	中部教職員会 特別支援教育委員会	今後の方向性について・・・中部ブロックが伊那市のみにあって 市教委との連携・伊那市特Co会と連携について
	6	21	水	中部同学年会	伊那養参観・・・副学籍児生を中心に 研修:特別支援教育に関する情報提供「学校での支援につながる就学相談」 南信教育事務所 特別支援教育推進員の柴田先生より ※市教委にも同席していただき、伊那市における就学の考え方についてもお話 いただき、意見交換したりした。 演習:「子どもの育ちの可能性をみつけよう」 伊那養護学校 渡邊教頭より
	11	30	木	中部教職員会 特別支援教育委員会	研修:「学びの場の多様性について」伊那中央病院院内学級が目指すもの 意見交換:小中移行支援について 中学校区ごとの懇談:移行支援・反省・来年度に向けて
	<p>・実効性をもたせるため、構成する委員を特Coにした。また、伊那市特Co会と連続性をもたせ3+2の5回とカウントして、話し合い等を積み重ねられるようにした。頻繁に顔をあわせることにより、気楽に口を開きやすい雰囲気になってきた。</p> <p>・中部同学年会では南信教事・市教委にも参加していただき、就学について話し合う場を設定した。市内の学校の特支担任が一堂に会する場なので、今後も現場の声を反映させる場として運営していけたらと思う。</p>				
	4	10	月	南部特別支援委員会	年間計画について
	5	10	水	南部教職員会同教科会	南信教事より「教育支援の方向について」情報提供
	7			南部特別支援委員会	各中学校区ごとの小中特別支援担当者会
2	学期		南部教職員会同教科会	施設見学 情報交換	
<p>・中学校区ごとにサテライト会につなげる情報交換会を行えたことは良かった。</p> <p>・地域の医療との継続的なつながりをどのようにつけていったらよいか。担当Drが変わったときなど。</p> <p>・市町村をまたいだ移動があったときに対象児童生徒の園→小、小→中への就学支援情報を事前にスムーズに伝えるためにはどうしたらよいか、課題が残る。</p>					
各市 町村	7	19	水	辰野町交流会	オリエンテーリング レクリエーション
	1	12	金	辰野町特別支援学級 担当・担任者会	交流会の反省 来年度の交流会の時期検討 各役職、当番校の確認 中学校進学児童についての情報交換
	<p>・上記の会以外に、辰野中学校区小中連絡会で、個別に6年生児童の移行支援について相談している。</p>				
	5	12	金	箕輪地区特別支援教育 コーディネーター研修会	顔合わせ 中学校進学に向けての移行・事例研
	7	7	金		事例研 3件 情報交換
	9	8	金	箕輪地区特別支援教育 コーディネーター研修会	事例研 3件 情報交換
	10	12	金		事例研 4件 情報交換
	1	19	金		事例研 来年度に向けての情報交換
<p>・検査の読み取りとアセスメントの学習会ができた。</p> <p>・知障、自・情障、通級、通常級それぞれで児童・生徒についての共通理解が深まった。</p> <p>・小中の移行支援について懇談する1つの場となった。</p> <p>・教育長命で招集したため、やむを得ない場合を除き、ほぼ出席いただけた。</p> <p>・無理のない形で来年度も続けていけるよう申し送りたい。</p>					

南箕輪村	6	13	火	南箕輪村特支担任担当者会	村内3校の特支担任、支援員、介助員、中間教室担当など一同にかいして懇談を行った。
	10	31	火	なかよし交流会	村内3校特支学級児生と副学籍児生との交流会
	12			PTA学習会	小中学校の特支学級保護者向け学習会
	<p>・今年度、初めて特支担任担当者会を南箕輪小学校を会場として開催することができた。懇談会では、知障、自・情障、中間教室(不登校)、支援員ごとに分かれて、現状や課題などが話し合われた。南箕輪村の特別支援教育の資質向上につながり有益であった。</p> <p>・今年度より南箕輪村は北部教職員会に入ることになったが、同学年会は開催しないことになり北部ブロックとしては活動することができなかった。</p> <p>・村教育委員会と協力して事例検討や支援方法の見直しなどを通して、特別支援教育のより一層の充実を目指していきたい。</p>				
伊那市	5	22	月	伊那市特コ会 ※市教委主催	市教委より ・副学籍、通級指導教室について ・教育支援委員会について 研修・協議 ・成長ダイアリーの活用法について ・中学校区別の懇談会
	10	16	月		協議 ・教育支援委員会から ・中学校LD等通級指導教室について ・虐待の現状と学校の役割 中学校区ごとの懇談:特コとしての役割・困り感
<p>・中部の委員と伊那市教育支援委員会の委員が兼務されていると、市教委との連携がスムーズである。今年度も小中ともに兼務者であり有効であった。</p> <p>・サテライト化を意識し、中学校区ごとの懇談の場を毎回設定していただいた。</p> <p>・市教委がとった特コ会アンケート結果をいただき、中部委員会の活動内容に反映させることができた。</p> <p>・副学籍、通級、成長ダイアリー、教育支援委員会、児童虐待、中学校区の懇談については、毎年ていねいに扱っていきたい。</p>					
宮田村	5	18	木	小中連絡会(担任者会)	新入生の引継ぎ、今後の予定について
	7	20	木	保護者学習会	将来に向けての話(伊那養護、きらりあ)
	7	31	月	小中合同研修	情報交換
	2	24		小中連絡会(担任者会)	情報交換
<p>・一村一校のため、小中連絡会や村の教育委員会主催の会議や情報委員会、就学支援委員会などで、その都度情報交換を行うことができた。</p> <p>・今後はさらに、医療など、専門的な機関と連携していけるようにしていくことが必要</p>					
駒ヶ根市	6	6	火	駒ヶ根市特コ等連絡会	校内支援体制について
	11	10	金		個別の指導計画を活用した支援についてその①
	2	20	火		個別の指導計画を活用した支援についてその②
<p>・市教委主導で特コ会が年に3回。校内支援体制、個別の指導計画の活用の具体について情報交換を行っている。小、中の支援情報の引継ぎについて、成果があると考えられる。サテライト会に向けて、教育と他の機関とのつながりをつけていくことが必要。</p> <p>・新子どもカルテ(結ing)と上伊那版の成長ダイアリーの活用をどうしていくか。</p>					
飯島町	4	13	木	飯島町三校担任者会	保護者会の立ち上げ
	6	27	火		三校交流会、バス遠足の計画
	9	19	火		バス遠足打ち合わせ、児生の情報交換
	12	19	火		保護者会総会について、児生の情報交換
<p>・定期的に担任者会を持ち、児生の情報交換を行ってこられた。</p> <p>・3校交流などの場を通して、実際の様子を知り合うことができた。</p> <p>・保小では昭和伊南、小中ではここ駒・飯田への受診につながるケースが多い。ケース会議等、医療にもかかわっていただける事例もある。小中でそのような情報も共有していきたい。</p> <p>・"個別の教育支援計画"について、町としてどのように扱っていくか方向を検討し、整えていく方向を確認したい。</p>					
中川村	6	21	水	三校研修会	授業参観と情報交換会
	7	28	金		合理的な配慮について事例報告等
	2				まとめの会 反省
<p>・支援の必要な児童について情報交換の機会を多くとることができて良かった。</p> <p>・医療機関や相談機関の情報や連携についても情報を共有できると良い。</p>					

各市町村

意見・要望・感想

教育	義務	<ul style="list-style-type: none"> ・行政や医療と一緒に考える会になっているところとても有り難いです。休日や時間外での会合を少しずつ勤務の割り振りなどにあてられるよう組合などの力を借りて働きかけられると良いと思います。 ・自立支援協議会全体会実施日が年度当初にわかっていると年間計画等が立てやすいです。療育部会も同様であるとありがたいです。より連携していかれるために、参加していきたいです。 ・大学とのつながりができ、より長い視点で子どもたちの育ちやライフステージごとの課題が明確に見えてくるようになった。 ・中学校特コが集まり、各校のUD化や合理的配慮について情報交換したい。高校入試を踏まえて、どのように定期テスト等で配慮し、高校側へ伝えていくのかある程度歩調を合わせて進めていく必要性を感じている。 ・中学校LDの新設に関わり、よろず相談に乗っていただき、また、即対応して下さい本当に感謝です。伊那養自立活動巡回支援担当者との連携を今後も個別に行っていきたいと思います。 ・年度が変わることで構成メンバーも変化していく。かみとくれん理事・役員間の引き継ぎをそれぞれの部署で確実に行っていただけるとありがたい。メンバーが代わるたびに各所へ事務局がでかけていくには物理的に無理があります。ご理解、ご協力をお願いします。
	高等学校 代表：伊那北高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、高校コーディネーター代表として「かみとくれん」理事会や取り組みに参加した立場から、小中学校の先生方に比べ、取り組みや様々な行事への参加状況が、高校側は十分ではなかったと反省しています。 ・高校間でも特別支援教育に関わる課題の違いがあるのですが、今後は「かみとくれん」への積極的な参加をしていくべきだと感じます。そのためには、高校コーディネーター代表を複数にすることや、会議や研修の回数も高校として増やしていくなど考えられると思います。
	大学 (信大農学部)	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障がい学生に対する理解と支援を考えるきっかけを作っていただき、ありがたかったです。
医療	町立辰野病院	
	上伊那生協病院	<ul style="list-style-type: none"> ・かみとくれんが1つの色にならないように、幅広い方々に主体的に関わってもらうのはどうでしょうか？ ・素晴らしい取り組みありがとうございます。毎年、大きな大会は準備などを含めて大変かと思えます。一方、分科会はもっと時間や頻度があると、いろいろな人との意見交換ができるかなと思います。 ・医療・福祉・行政の連携を更に密にできる様、勉強会等の集まりを頻回にできればと思います。 ・運営などに関わらせていただく中で、顔を知ってもらえたり、つながりができたことへ感謝しています。他分野の方とこれだけ気軽に情報交換できるようになったことで、学べることも多く、大変ありがたいです。 ・箕輪町にある病院としては、箕輪町の方々がかみとくれんに積極的に参加して下さることを強く願っています。 ・感覚を扱う科(眼科・耳鼻科・視能訓練士)から発達障がいをどうとらえているかを知りたい。 ・各小学校でのSSTの取り組みがあるといいなと思っています。 ・支援の充実をはかるために、個別支援計画などの積極的な開示から、支援の目的や方向性、問題の共有化が積極的に図れると良いと思いました。
	伊那中央病院	
	滝小児科医院	<ul style="list-style-type: none"> ・こうして皆さんと集まれ、話ができている事に安心感、一人で背負わねばと思っていた気持ちがとても楽になり、前向きになっている。 ・どこにどんな方がおられるかがわかってきましたし、ライフステージごとの課題も入り口として見え始めています。各機関が何をしているのか、そのために誰が窓口でどのようにつながればいいのか、上伊那の機関のマップみたいなものが欲しいです。 ・きらりあ、行政の福祉、教育、保健の発達支援への取り組みが医療側からは見えづらいです。こちらの情報の送り方にも問題があるかと思いますが、時に患者さんにお勧めしてもたらい回し的になってしまわれ、ご迷惑・ご負担をおかけしてしまっています。なので、紹介の場合どんな情報があればいいのかわかるといいのかな？ ・学校カウンセラー、学校ケースワーカーさんの役割、動き、連携も見えづらく、多くの方、相談機関が増えたことでの相談する側の混乱、支援の不統一が起きている場合もあり、そこも見えてくると良いと感じます。

医療	昭和伊南総合病院	<ul style="list-style-type: none"> ・サテライト単位での事例検討などの機会があればより参加しやすいので、サテライト化推進に期待しています。 ・社会資源の少ない中で、医療・福祉・行政の相談支援機関の担当者はすでに顔の見える間柄だと思います。
	こころの医療センター 駒ヶ根	
	上伊那 歯科医師会	
福祉	上伊那圏域 障がい者総合 支援センター きらりあ ・ 上伊那圏域 地域自立支援 協議会	
	保育現場	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリの中でひらがなや簡単な算数等をしているお子さんがいます。就学後 困らない為と言われましたが、実際必要なことでしょうか？ ・異動先の初年度に年長児の担任になりました。生活に慣れるのが精一杯で、就学に向けての親御さんへの働きかけや学校見学などに気が回らず、支援への促しが十分にできなかったと後悔しています。花田養護学校にいたっては、申し込みの締め切りが9月いっぱいだったことも知らずお恥ずかしい限りです。このように知識のない保育士が支援保育士になることが十分あり得る中、お子さんのことを考えると申し訳なさでいっぱいです・・・